



令和6年度

学校評価報告書

帝塚山幼稚園



学校法人帝塚山学園

令和6年度学校評価について

帝塚山幼稚園は、令和6年度の教育活動及びその他の学校運営の状況について、学校評価を実施しました。

学校評価は、保護者を対象としたアンケート結果、育友会等との懇談会で寄せられた御意見等を活用のうえ自ら評価を行い、さらにその結果について学校関係者による評価を行いました。

このたびの結果を踏まえ、更なる教育水準の向上を目指して、教育活動及び学校運営の改善工夫に組織をあげて継続的に取り組んでいく所存です。

帝塚山幼稚園
園長 塚本 真紀

令和6年度 学校評価

1. 総括

学 校 名	帝塚山幼稚園
建学の精神	社会に有為な人材を育成する
重点目標 (教育目標)	一人ひとりに寄り添い、豊かな感性と知性を育む教育を実践する。 “「一人ひとりの内面を育てること」を目標とし、自然とふれあいながら豊かな心を育み、好奇心、思考力、表現力の基礎を築く。”
前年度の成果と課題	[成果] 本園独自の四季の自然とのふれあいを主軸とした教育カリキュラムにより園児の主体性を大切にし、一人ひとりの個性を尊重しながら豊かな感性と知性、自己肯定感を育む教育を実践した。 [課題] 園児の実態に即した教育の実践を図り、園児が主体的な遊びを通して心身の健やかな成長を遂げられるような教育を追求していく。また、各家庭とも連携し、園児一人ひとりに寄り添いながら個々の成長を見守り、子どもの内面理解に努める。

2. 自己評価

評価は4段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかった）】

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
1 建学の精神に基づく教育活動の共有化	① 「帝塚山教育」を根本とする幼稚園の「一人ひとりの内面を育てる」という教育目標を共有し、目標達成に向けて実践する。 (令和6年度教育カリキュラム、職員会議資料)	A	A	① 年度初めの職員会議において「一人ひとりの内面を育てる」という教育目標を職員間で共有し、目標達成に向けて教員一人ひとりが研鑽しながら実践を積んだ。年間通じて実施する園内研究会の今年度の研究課題「子どもの興味をどう捉えるのか」を中心に、子どもの活動から意味を読み取っていく事を考えながら、各教員がそれぞれ具体的目標をもって保育に取り組み、学びを共有した。	① 「帝塚山教育」を根本とする幼稚園の「一人ひとりの内面を育てる」という教育目標を共有し、目標達成に向けて実践する。
	② 園児の実態を見ながら教育課程を編成し、柔軟な思考を持ち、常に検証しながら実践していく。 (令和6年度教育カリキュラム、クラス指導の週案及び日案)	A		② 令和6年度教育カリキュラムに沿って、年間の指導計画を立て、園児の実態を踏まえながら日々の教育活動に柔軟に取り組んだ。	② 園児の実態を見ながら教育課程を編成し、柔軟な思考を持ち、常に検証しながら実践していく。
2 自然教育の実践と教育内容の質の向上	① 園児が豊かな心を育むために四季折々の楽しさを感じられる直接体験型の園外保育を計画、実施し、園児にはその経験をもとに様々な表現活動を行うことで、心豊かな園生活を送らせる。 (園外保育の実施計画・報告書(園便り・クラス便り・てづきッズ便り・ホームページ))	A	A	① 田植えから稲刈りまでの体験や夏の虫捕り、秋の木の実や落ち葉拾いなどの四季の楽しさを園児が実感できる直接体験型の園外保育を多く実施し、心豊かな園生活を送らせた。その経験を通して様々な表現活動を行うことから、好奇心、思考力などを培う基礎を作った。	① 園児が四季折々の楽しさを感じられる直接体験型の園外保育を計画、実施する。園児にはその経験をもとに様々な表現活動を行うなど、心豊かな園生活を送らせ、好奇心、思考力、表現力の基礎を築いていけるようにする。
	② 自由遊びの時間に子どもが遊び込める環境設定を工夫し、自分で考えたり、協同する経験を積ませる。 (思考力・判断力・表現力等の基礎や学びに向かう力を育めるよう園内の環境構成を整備するための年間計画表及び職員会議録)	A		② 園児たちが自由な発想で遊びを創造し、主体的に遊べるように、職員間で、環境設定を工夫した。例えば、園児が身近な自然に日々の自由遊びの中で触れられるように四季折々の草花や小虫などを楽しめる園庭や花壇の植栽計画をし、観察池の環境整備等も行った。	② 自由遊びの時間に特に園庭において園児が遊び込める環境設定を工夫し、自分で考えたり、協同する経験を積ませる。
3 道徳性の芽生えと人権教育	① 各家庭と協力し、集団での通園マナーを徹底する。また、異年齢と関わる活動を設定し、そこからの子どもの学びを保護者とも共有し、道徳性の芽生えを育む。 (令和6年度園児の通園マニュアル、異年齢交流計画(職員会議録)及び園便り、クラス便り)	A		① 年度初めに保護者に集団送迎時のマナーやルールを説明し、周知した。日々の園生活の中で自然な形で異年齢交流ができる機会を設け、他者を思いやる心を育むことにも繋げ、園児の学びを保護者とも共有した。	① 各家庭と協力し、集団での通園マナーを徹底する。また、異年齢と関わる活動を設定し、そこからの園児の学びを保護者とも共有し、道徳性の芽生えを育む。
	② 年間の行事の中で、一人ひとりのその子らしい姿を教師が大切に受けとめ、個性を発揮できるようにする。また、保護者にその行事の目的や得られた成果を分かりやすく伝え、共有できるようにする。 (行事計画案、職員会議録、クラス便り・園便り・てづきッズ便り・ホームページ)	A	A	② 教員間で、年間行事のそれぞれの目的やねらいを明確にし、保護者にはその行事までの過程を大切にすることの意義と行事を通しての園児の心の成長についてできるだけ詳細に伝えた。	② 年間の行事の中で、一人ひとりのその子らしい姿を教師が大切に受けとめ、個性を発揮できるようにする。また、保護者にその行事の目的や園児たちが得た成果を分かりやすく伝え、共有できるようにする。
	③ 継続的に近隣の高齢者施設の方との交流を計画し、実施する。また、その交流から得た子どもの心の成長を保護者と共有する。 (施設計画案(会議録)及び実施後のクラス便り、ホームページ)	A		③ 近隣の高齢者施設の方との交流会を実施し、園児に「心のバリアフリー」を学ばせる機会を持つことができた。またその成果を保護者とも共有した。	③ 継続的に近隣の高齢者施設の方との交流を計画し、実施する。また、その交流から得た園児の心の成長を保護者と共有する。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
4 「帝塚山で学び、育つ」ことを意識した学園内教育連携の強化と共有化	① 幼稚園、帝塚山小学校教員とが教育の相互理解をしたうえで、連携を意識した園児と小学生との交流活動を検討し、計画、実施する。 (実施計画案(幼小)と報告(クラス便り・園便り、ホームページ))	A	A	① 帝塚山小学校1年生との交流会を計画し、実施した。また帝塚山小学校1年生の校内研究授業に幼稚園教諭が参加し、幼小連携を意識した学びの継続性を考える機会をもつことができた。	① 幼稚園、帝塚山小学校教員とが教育の相互理解をしたうえで、連携を意識した園児と小学生との交流活動を検討し、計画、実施する。
	② 園児、保護者ともに「帝塚山教育」の良さを実感できるような帝塚山中学校・高等学校教員の指導による体験型授業や学内で実施される行事等を体験できる機会を設定する。 (実施計画・報告書 職員会議録)	A		② 帝塚山中学校・高等学校の弦楽部の協力を得て演奏会を幼稚園内で実施し、有志の親子で鑑賞する機会を持つことで、実際の中学、高校生の姿を間近に見られたことは園児、保護者双方にとって貴重な体験となった。吹奏楽部の演奏会にも有志親子で参加できたことも好評だった。	② 園児、保護者ともに「帝塚山教育」の良さを実感できるような帝塚山中学校・高等学校教員の指導による体験型授業や学内で実施される行事等を体験できる機会及び園内での帝塚山中学校・高等学校の生徒による演奏会などを設定する。
	③ 帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科指導による食育活動を継続実施し、家庭と協力して「食べること」を通して「生きる力」を育むことを実践する。 (年間15回以上の食育活動計画及び実施報告書)	A		③ 帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科指導の食育活動の年間計画を立て、計画通り実施した。食育を通して「生きる力」を育むというねらいを、保護者とも共有し、「食」に関する親子教室も実施した。	③ 帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科指導による食育活動を継続実施し、家庭と協力して「食べること」を通して「生きる力」を育むことを実践する。
	④ 幼稚園の教員が学園内の各学校の大きな動向を出来る限り共有し、教員から保護者に「帝塚山教育」の良さを発信する。 (内部進学に係る日程表・クラス会資料(年間3回)・子育て支援講座実施報告(園便り、ホームページ、てづきっす便り) 内部進学率83%以上)	A		④ 帝塚山小学校の施設を利用する行事などを通して保護者に内部進学の推進を図り、内部進学率は昨年度より増となった 上昇した。帝塚山大学心理学部の協力を得て、「子育て講座」を実施し、保護者から好評だった。	④ 幼稚園の教員が学園内の各学校の大きな動向を出来る限り周知、共有し、教員から保護者に「帝塚山教育」の良さを発信する。
5 国際理解教育の推進	① 小学校英語科に円滑な連携ができるよう「英語の時間」の内容を精査して、カリキュラムを立案し、実施する。 (各学年年間20回以上の「英語の時間」の実施)	A	A	① 幼稚園独自の英語科カリキュラム編成のため、ネイティブスピーカーの教員による「英語の時間」の年間計画を立案し、計画通り実施した。	① 小学校英語科に円滑な連携ができるよう「英語の時間」の内容を精査して、カリキュラムを立案し、実施する。
	② 国際理解の礎となる日本文化への興味関心が持てるように、帝塚山大学客員教授による解説を聴いて奈良の文化遺産に触れる園外保育を計画し、実施する。 (日本文化に触れる教育活動の年間計画書と実施報告書(クラス便り・園便り・ホームページ))	A		② 年長児を対象に奈良の伝統工芸である赤膚焼の窯元での体験を実施した。また、帝塚山大学西山厚客員教授による「大仏様のお話」を年長児が聴いた後、大仏殿を参拝し、絵画作品を完成させるなど、「文化遺産に直に触れ、学ぶ」教育活動を実施した。	② 帝塚山大学客員教授による解説を聴いて奈良の文化遺産に触れる園外保育を計画、実施し、日本文化への興味関心を持ち、大切さを学ぶことから次代を担う園児たちの国際理解へと繋げていく。
6 研究・研修を通じた教員の資質向上	① 令和6年度の「自然教育」の園内研究課題を設定し、それに向けて各教員が各々の研究目標をもち、毎月の園内研究会を通して研鑽を積む。また、公開保育研究会を実施し、更なる教員の資質向上に努める。 (毎月1回の園内研究会(年間10回)の実施と園内研究会記録、又公開保育研究会の計画書及び報告書)	A	A	① 年間を通じて、外部講師による園内研究会を計画し、計画通り実施した。この研究会を通して本園独自の「自然教育」についてさらに研鑽を積んだ。また3学期に公開保育研究会を実施し、園外の幼児教育関係者から多くのご意見やご批評を得ることで教員の資質向上に繋げることができた。	① 令和7年度の「自然教育」の園内研究課題を設定し、それに向けて各教員が各々の研究目標をもち、毎月の園内研究会を通して研鑽を積む。また、公開保育研究会を実施し、更なる教員の資質向上に努める。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
6 研究・研修を通じた教員の資質向上	② 外部研修に積極的に参加し、学びを教員間で共有し、指導力向上を目指し、「子どもの行動を見取る力」を身につける。全教員延べ92回の研修に参加する。 (研修参加回数 研修報告書職員会議録)	A	A	② 様々なテーマの外部研修会に、積極的に全教員が複数回参加した。	② 外部研修に積極的に参加し、学びを教員間で共有し、指導力向上を目指し、「子どもの行動を見取る力」を身につける。全教員延べ前年度並みの研修に参加する。
7 学校評価の実質化	① 自己評価結果を踏まえ、園運営について組織的、継続的な改善を図ると共に評価結果をホームページで公表する。 (令和6年度自己評価結果(ホームページ公表))	A	A	① 令和5年度の自己評価結果を踏まえ、園運営について組織的、継続的な改善を図ると共に評価結果をホームページで公表した。	① 自己評価結果を踏まえ、園運営について組織的、継続的な改善を図ると共に評価結果をホームページで公表する。
	② 学校関係者評価を継続実施し、適切に説明責任を果たす。評価結果を真摯に受け止め、より良い教育活動や園運営に活かす。 (令和5年度学校関係者評価結果(ホームページ公表))	A		② 学校関係者評価の内容を検討、準備し、令和5年度学校関係者評価を実施し、ホームページで公表した。	② 学校関係者評価を継続実施し、適切に説明責任を果たす。評価結果を真摯に受け止め、より良い教育活動や園運営に活かす。
8 教員評価の実施推進	① 教員の自己評価の目的や意義を理解し、管理職による面談も行い、年間2回の自己評価を実施する。 (教員自己評価表(年間2回)及び個別面談(年間2回))	A	A	① 教員に自己評価の実施に向けての趣旨説明を行い、年2回(前期・後期)の管理職による教員の個別面談と自己評価を実施した。	① 教員の自己評価の目的や意義を理解し、管理職による面談も行い、年間2回の自己評価を実施する。
9 園児募集・広報活動の強化	① 教育連携課の客観的な見方や情報を入手し、効果的なPR活動を実施すると共に、個別見学などニーズに合わせた対応を行う。また、帝塚山学園経営安定化計画(小幼編)に沿って、プロジェクトチームを編成し、広報強化することにより、募集定員の充足を目指す。保護者負担の軽減につながるよう、WEB出願システムを導入する。 (募集関連の説明会3回、季節の体験保育3回、体験保育個別見学会4回、2歳児対象個別体験見学会2回の他、きめ細やかな個別案内の実施。WEB出願システム、プロジェクトチームでの検討結果、募集定員充足)	C	C	① 教育連携課の協力の下、広報強化プロジェクトチームを編成し、効果的な園児募集対策について検討した。入園説明会、個別体験・見学会だけでなく随時、個別の園案内を実施し、更に帝塚山短期大学同窓会、中高同窓会を通して幼稚園・2歳児教育のPRの為に資料配布をした。幼稚園、2歳児教育とも、昨年度の出願者数とほぼ同数ではあるものの、募集定員充足には至らなかった。今年度より導入したWEB出願、新たな広報ツールとして開設したInstagramを通して、今後も有効な募集活動を実施していくこととした。	① 園外からの客観的な見方や情報から効果的な園児募集対策について継続的に検討する。入園説明会、個別体験・見学会だけでなく随時、個別の園案内を実施し、更に帝塚山短期大学同窓会、大学同窓会及び中高同窓会を通して幼稚園・2歳児教育のPRを実施する。WEB出願の利点を生かすこと、またInstagramを活用して幼稚園の教育活動や募集関連行事における園児の生き生きした笑顔と姿をPRすることで入園希望者の拡大を図る。
	② ホームページで日々の園生活の様子や総合学園の強みを生かした教育活動を伝えるなど、幼稚園の特色をアピールする。また、帝塚山小学校の募集広報活動と連携させ、外部説明会にも積極的に参加する。法人企画課の協力を得て、より明確な募集活動を実施する。 (ホームページのニュース&トピックス(毎日更新)、募集関連行事の案内(チラシ)、帝塚山小学校広報部と連携した募集活動)			② 幼稚園・2歳児教育共に園児の様子をアピールするため、幼稚園のホームページのニュース&トピックスを毎日更新した。また、教育連携課の協力を得て、帝塚山小学校と広報強化プロジェクトチーム会議を開催し、有効な募集広報活動の実施に努めた。幼稚園のInstagramも開設し、情報発信をより強化した。	② ホームページで日々の園生活の様子や総合学園の強みを生かした教育活動を伝えるなど、幼稚園の特色をアピールする。また、帝塚山小学校の募集広報活動と連携させ、外部説明会にも積極的に参加する。幼稚園のInstagramを通して積極的にタイムリーな情報発信をする。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
9 園児募集・広報活動の強化	③ 各学校との連携活動とその教育的効果を理解してもらえるよう、保護者にきめ細やかに伝える。 (園だより、てづきッズ便り、クラス便り、クラス会資料及びホームページ)	A	C	③ 帝塚山大学教育学部の学生との絵画制作活動を通して連携行事、食物栄養学科との食育活動(親子教室を含む)、心理学部とのキンダーカウンセリング事業など学園前キャンパス内での教育連携を積極的に行った。また、その成果を園便り、クラス便り、幼稚園ホームページを通して保護者に伝えた。	③ 各学校との様々な連携活動とその教育的効果を理解してもらえるよう、保護者にきめ細やかに伝える。
10 安全管理の強化と徹底	① 一斉避難訓練を含めた防災訓練を定期的に(毎月1回)計画、実施し、園児の防災意識を高める。 (令和6年度学校安全計画(幼稚園) 毎月1回(年間11回)の防災訓練計画と実施記録)	A	A	① 令和6年度学校安全計画(幼稚園)を策定し、園児の防災意識を高めるために避難訓練の年間計画を立て、実施した。	① 一斉避難訓練を含めた防災訓練を定期的に(毎月1回)計画、実施し、園児の防災意識を高める。
	② 危機管理マニュアルを点検し、教職員間で内容を共有する。スクールバス安全運行マニュアルを点検し、スクールバス園児置き去り防止対策を徹底する。 (危機管理マニュアル スクールバス安全運行マニュアル)	A		② 危機管理マニュアル及びスクールバス安全運行マニュアルの内容の点検、見直しをしたうえで、教職員間で内容を共有した。またSNS上での個人情報の取り扱いについて教職員、保護者ともに安全強化を徹底した。	② 危機管理マニュアルを点検し、教職員間で内容を共有する。スクールバス安全運行マニュアルを点検し、スクールバス園児置き去り防止対策を徹底する。
11 保健管理の徹底	① 地域の保健・医療機関との連携も図りながら学校保健計画に従った保健管理を行う。 (令和6年度学校保健計画(幼稚園)、保健だより)	A	A	① 学校保健計画(幼稚園)を策定した。季節性インフルエンザや新型コロナウイルス感染症について適宜養護教諭より感染予防策について保健だよりを通して保護者に発信した。	① 地域の保健・医療機関との連携も図りながら学校保健計画に従った保健管理を行う。
	② 養護教諭による保健指導を含め、園児の心身の健康について留意する。 (保健指導年間計画、報告(保健だより))	A		② 保健指導計画を立案し、養護教諭を中心に計画通り園児に年6回の保健指導を徹底した。	② 養護教諭による保健指導を含め、園児の心身の健康について留意する。
12 子育て支援事業の充実	① 2歳児教育の園児の個々に寄り添い、健康で自由な心身の成長を促すための保育計画を立案、実施する。 (令和6年度2歳児教育カリキュラム)	A	A	① 令和6年度2歳児教育カリキュラムを作成し、園児の実態に即して柔軟な活動を実施した。	① 2歳児教育の園児の個々に寄り添い、健康で自由な心身の成長を促すための2歳児教育カリキュラムを立案、実施する。
	② 帝塚山大学心理学部の協力を得て、キンダーカウンセラー事業を有効的に展開し、支援を必要とする園児とその保護者に対して適切な対応ができるようにする。また適正なクラス運営に繋げられるようにする。 (年間10回のカンファレンス実施記録書)	A		② 帝塚山大学心理学部・大学院心理科学研究科とキンダーカウンセラー事業に取り組み、園児や保護者のカウンセリングを実施し、カンファレンスで教員とも情報共有した。また、心理学部生、大学院生の実習受け入れにも協力し、相互の学びに繋がる事業を展開した。	② 帝塚山大学心理学部及び心理科学研究科の協力を得て、キンダーカウンセラー事業を有効的に展開し、支援を必要とする園児とその保護者に対して適切な対応ができるようにする。また適正なクラス運営に繋げられるようにする。
	③ 帝塚山大学教育学部の学生ボランティアの協力も得ながら、安心して保護者が預けられる環境を設定する。課外活動について外部業者委託など新たに検討する。 (通常に加え、長期休業中の預かり保育25日以上、課外時間の外部委託事業の検討資料)	A		③ 保護者のニーズにあわせて長期休業中の預かり保育を年間25日以上実施し、安心して預けられる環境を提供できるよう帝塚山大学教育学部学生ボランティアの協力も得ながら取り組んだ。また課外活動を新設し、保護者が安心して利用できていた。	③ 帝塚山大学教育学部の学生ボランティアの協力も得ながら、安心して保護者が預けられる環境を設定する。保護者が安心感と満足感を持って課外活動を利用できるよう工夫する。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
13 経営安定化策 の強化	① 費用対効果を考慮し、継続的な節約(事務費を中心に)に努める。また、スクールバスのコスト抑制を検討する。 (物件費を減少(人件費・減価償却費除く)させる。(節減率:10%)、検討資料)	A	A	① 年度初めに、幼稚園の教職員全員が継続的な節約(事務費等を中心に)に努めることを確認し、実行した。また、スクールバスのコスト削減について検討し、令和7年度から1台の運行に切り替えることを決定した。	① 費用対効果を考慮し、継続的な節約(事務費を中心に)に努める。また、スクールバスを1台にすることでコスト抑制を図る。
	② 総園児数からのクラス編成数に応じた、適切な人事制度や人員配置について段階的に移行することを検討する。 (総園児数からのクラス編成数を明確にし、それに伴う人員配置についての検討資料)	A		② 適切な人員配置を心掛けることを管理職を中心に確認した。	② 総園児数からのクラス編成数に応じた、適切な人事制度や人員配置について段階的に移行させる。

3. 学校関係者評価

学校関係者評価実施日：令和7年4月18日

学校関係者評価委員会委員：育友会会長、副会長、帝塚山大学教授、帝塚山小学校校長

意 見	改 善 方 策
① 自然との触れ合いを大切にする保育は是非、続けて大事にして欲しい。”伸び伸びしている”だけでは、園の良さを伝えるPR力に乏しい。自然との触れ合いを通して伸び伸びさせながら、もっと活動を特化して、小学校への受験活動へ繋がる「生きる力」を身につけていける幼稚園であること等、幼稚園のイメージを変えていくこととしていってはどうか。園の教育方針（本質）は変えず、保護者の視点を大切にするのと今の時代と合わせて目標を変えていく必要があるのではないかな。	① 当園の掲げている四季の自然とのふれあいを主軸にした教育カリキュラムにより、園児の主体性を大切に、見て、触れて、感じる等、生の体験を通して、好奇心を育て、感じる心、考える力、仲間との中で自ら学ぶ力、生きる力を身につけていく取り組みをしているが、外部者からはわかりにくい。自然と触れ合って伸び伸びしている幼稚園としか伝わらない。対外的にも幼稚園のイメージを掴んでもらいやすい自然と親しむことに特化していけるような活動を今後、模索して取り組んでいきたい。
② 園児募集において効果的な広報活動の点でC評価を挙げているが、初めの一歩であるホームページやInstagram等、WEBでの発信は、受験を考えている園に興味を持つ人等、限定された範囲内にしか届けられていない。今後、「外に出て外へ発信する」ことを考えてみてはどうか。外部評価されるから、自ずと園児が集まってくるのではないかな。	② 外部機関での活動等、「帝塚山幼稚園」を周知してもらえるような機会を積極的に持ち、募集定員の充足を目指したい。
③ 在園している園児と保護者の満足度を上げることが大事である。周りの人にも勧めたくなり、口コミで園児が集まる大きな要因となる。引き続き、保護者の視点を大切にして反映させていくことに取り組んで欲しい。また、同じ敷地内に幼稚園、小学校、中学校・高等学校、大学まであることは、日頃から教育連携をして交流できることや、幼稚園から内部進学をしたお子様の成長を見守れることも総合学園の良さである。幼稚園は、2歳児教育からの内部進学者を増やすことを考えると、2歳児教育の園児募集も今後の大きな課題である。	③ 今後も在園している園児と保護者の満足度を上げていけるように保護者アンケート等、保護者視点での「魅力的な幼稚園とは？」「子どもが主体的に取り組めているか？」等、「子どもがまんなか」であるように常に問いかけながら努力していきたい。総合学園としての良さを大きなメリットとしてアピールして、学内教育連携を活発に進めていきたい。少子化による園児数の減少は避けられないが、総合学園であることの魅力を生かすことで、数少ない園児を集めることは小学校との協力も不可欠であり、総合学園である長所を最大限に生かして園児募集活動に取り組みたい。